

【論点資料】

職業に関する各教科の 目標・内容の構造化・表形式化について

③



第4回WGの論点

第4回

1. 職業に関する各教科等を通じて育成する資質・能力のあり方・示し方

- 中核的な概念等に基づく内容の一層の構造化や、その過程における必要に応じた精選のあり方。

→第3回までの議論を踏まえ、各教科等の目標を整理するとともに、高次の資質・能力を踏まえた内容の表形式化ができないか。

目標

(柱書)

(見方・考え方)を働かせ、(学習過程)を通して、(資質・能力の趣旨)資質・能力を次のとおり育成することを目指す

(資質・能力の柱ごとの目標)

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等

議題(1)「知識・技術」、「思考力、判断力、表現力等」

- ・「知識・技術」、「思考力、判断力、表現力等」について、目標にどのように記載すべきか

内容

(知識及び技能)	(思考力、判断力、表現力等)
中核的な概念の深い理解(仮称)	複雑な課題の解決(仮称)
● 年 相 当	● 年 相 当
● 年 相 当	● 年 相 当

議題(2)内容の表形式化の具体的な形式

- ・内容の表形式化について、具体的にどのような形式とすべきか

議題(3)高次の資質・能力(中核的な概念等)

- ・高次の資質・能力(統合的な理解、総合的な発揮)について、どのように記載すべきか

(内容の取扱)



議題 (1)

知識・技術、思考力、判断力、表現力等

職業に関する各教科における目標の示し方（第2回WGの議論より）

①職業に関する各教科の目標の柱書について



方向性

- 産業教育に関する各教科の目標の柱書は、企画特別部会において、見方・考え方は別途整理することとした上で、①資質・能力の趣旨、②学習過程（教科の特徴的な活動）を端的に示すと方向性が示されている。
- ①資質・能力の趣旨は、各教科の関連する産業や社会の「健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力」を、②学習過程（教科の特徴的な活動）には、専門高校で重視すべき学習活動として、「実践的・探究的な学習活動を行う」としてはどうか。
- 職業に関する各教科の学びを深めるためには、共通教科の学びも重要となるが、こうした観点から目標において配慮すべきことにはどのようなものがあるか。

イメージ

地域や社会、産業の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力（資質・能力の趣旨）について、実践的・探究的な学習活動を行うことなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

②職業に関する各教科の「学びに向かう力・人間性等」について



方向性

- 職業に関する各教科の目標における「学びに向かう力・人間性等」の記述について、4つの要素を踏まえつつ、学習過程との関係で検討・整理していくこととし、当該整理をもとに更なる検討を進め、より洗練された言葉で示していくこととしてはどうか。
- 「学びを方向付ける人間性」は、社会の一員としての態度及び個人として目指すべき人間性の両面から捉えてはどうか。
- また、産業教育に関する各教科の目標を現行同様、職業に関する教科という共通性から各教科概ね同様の内容としてはどうか。

イメージ

【改善のイメージ（要素）】

- ① 各職業に関わる課題を自分との関係で捉え、（初発の思考等）
多様な他者との対話・協働を通してそれらをよりよく解決しようとする態度。
（他者との対話や協働）
職業人としての視点から自己の思考や行動を調整する力。
（学びの主體的な調整）
- ② 職業人としての倫理観と豊かな人間性。社会の一員としてよりよい社会を実現しようとする態度。（学びを方向付ける人間性）

職業に関する各教科における見方・考え方（第2回WGの議論より）



方向性

- 職業に関する各教科の見方・考え方については、企画特別部会において、①当該教科が扱う事象や対象、②当該教科固有の物事をとらえる視点、③当該教科固有の考え方や判断の仕方を端的に示す方向で整理すると示されている。
- その際、③については、実際の職業に繋がる教科であることから、当該産業や産業に関わる社会の発展とともに、職業人としての自己の成長に関わる考え方や判断の仕方を含めてはどうか。

イメージ

<産業教育の見方・考え方の要素>

補足参考資料2

	現行（前回答申より）	改善のイメージ
当該教科等が扱う事象や対象	社会や産業に関する事象を、	社会や産業に関する事象を、
当該教科固有の物事を捉える視点	職業に関する各教科の本質に根差した視点で捉え、	職業に関する各教科の本質に根差した視点で捉え、
当該教科固有の考え方や判断の仕方	人々の健康の保持増進や快適な生活の実現、社会の発展に寄与する生産物や製品、サービスの創造や質の向上等と関連付けること	職業人としての自己の成長と、 社会や産業の発展につなげること

職業に関する各教科における目標の示し方 ～「知識・技術」、「思考力、判断力、表現力等」について～

【現行の規定】

知識及び技術	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
各職業分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	各職業分野に関する課題を発見し、職業人としての倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	職業人として必要な豊かな人間性をはぐくみ、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

- 変化の激しい社会の中において、前例にとらわれず市場環境や業態変化に柔軟に応えられる産業人材が求められていることや、人口減少に伴い構造的な人手不足が生じており、特に地元経済を支える企業のDX化を牽引する即戦力となる人材が求められている中で、現行の目標の「知識及び技術」、「思考力、判断力、表現力等」の在り方を考える必要がある。



方向性

- 「知識及び技能」に関する観点について、職業に関する各教科については従来より「知識及び技術」と整理してきた。これは「技能」がより高まった段階が「技術」であるということを用いてきた言葉であるが、「技術」という言葉の持つ意味合いが「技能」に包含される狭義の「技術」（個別スキル）と誤解され得るものであることや、今次改訂において職業に関する各教科では学習指導要領自体を資質・能力ベースに改める検討を行っていることから、**「知識及び技能」と表す**こととしてはどうか。（※以降、暫定的に「知識及び技術」を「知識及び技能」と表現する。）
- 「知識及び技能」については、「各職業分野について体系的・系統的に理解する」ことに留まらず、「社会的な意義や役割」についても重要であり、このことが未来志向で当該産業の在り方を考える素地にもなるものと考えられることから、**「社会的な意義や役割」について目標に追記する方向**でどうか。
- 加えて、現在「関連する技術を身に付ける」となっているが、「関連する技術」は多様であり技術だけで完結するものではないため、指導に深まりを持たせるためにも、**「何のための「技能」であるのかを追記する方向**でどうか。
- 「思考力、判断力、表現力等」については、**「データの利活用が不可欠になることから、「科学的な根拠に基づいて探究」することを明記**してはどうか。

イメージ

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
各職業分野について 社会的な意義や役割を踏まえ体系的・系統的に理解するとともに、各職業分野の発展及び職業人としての自己の成長のために必要となる技能 を身に付けるようにする。	各職業分野に関する課題を発見し、 科学的な根拠に基づいて探究するとともに 、職業人としての倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する力を養う。	第2回目の議論を踏まえ更に検討

高等学校における「三つの方針」の策定・公表

「三つの方針」（スクール・ポリシー）の策定・公表（学校教育法施行規則の改正）

- ✓ **高等学校教育の入口から出口までの教育活動**を一貫した体系的なものへと再構成
- ✓ 各高等学校教育の**継続性を担保**

▶ 特色・魅力ある教育の実現に向けた**整合性のある指針として「三つの方針」を策定・公表**

第百三条の二 高等学校は、当該高等学校、全日制の課程、定時制の課程若しくは通信制の課程又は学科ごとに、次に掲げる方針を定め、公表するものとする。

- 一 高等学校学習指導要領に定めるところにより育成を目指す資質・能力に関する方針
- 二 教育課程の編成及び実施に関する方針
- 三 入学者の受入れに関する方針

- ✓ 各高等学校における**育成を目指す資質・能力を明確化・具体化**
- ✓ **カリキュラム・マネジメント**を通じて、学校全体の教育活動の**組織的・計画的な改善**へと結実
- ✓ スクール・ポリシーを基準にして、**高等学校の教育活動や業務内容を精選・重点化**
- ✓ **学校評価**において、スクール・ポリシーに照らして自らの取組を点検・評価

三つの方針の内容

- ✓ 生徒や入学希望者の**学習意欲を喚起**し、学校生活や将来に対する展望を持ちやすい表現・内容
- ✓ 日常的に参照可能なよう、総花的なものとなせず**真に重点的に取り組む内容**を示す指針
- ✓ スクール・ポリシーについても**日々の教育活動の検証等を通じた見直し**



議題 (2)

内容の表形式化の具体的な形式

検討項目③ 内容の表形式化の具体的な形式(1)

令和7年10月14日
総則・評価部会
論点資料

1. 内容の表形式化を行う趣旨・目的

- 論点整理では、分かりやすく使いやすい学習指導要領の実現を通じて、「主体的・対話的で深い学び」の実装を図る観点から、学習指導要領の内容について、中核的な概念等をもとに表形式で構造化を図る方針を示している
- 具体的には、
 - ①「知・技」「思・判・表」(※1)の深まりの可視化 (「タテ」の関係の可視化) 、
 - ②「知・技」「思・判・表」の一体的育成の可視化 (「ヨコ」の関係の可視化) により、
資質・能力の関係性の理解に基づき、それらを一体的に育成する教師の単元づくり(※2)を助け、「深い学び」を授業で具現化しやすくすることを目指すとしている (※1)「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」を指す。以下同じ。
(※2) 題材づくりを含む。以下同じ。
- 総則・評価特別部会として、論点整理の趣旨を具現化する表形式での構造化の在り方を検討し、各教科等WGでの検討に資するよう、具体的に示す必要がある

2. 内容の表形式化の具体的な考え方 (「並列」パターン)

- 1. で示した趣旨を具体化する表形式を考える際、「タテ」の関係を可視化するには、個別の「知・技」「思・判・表」それぞれについて、児童生徒の中で相互に関連付けられ、構造化されて深い理解や習得に至った際の資質・能力の姿を示すことが重要となる。また、「ヨコ」の関係を可視化するには、「知・技」に対応して一体的に育成を目指す「思・判・表」を並列して記載することが考えられる
- これらを表形式で表現すると、以下のようなイメージが考えられる

中核的な概念の深い理解 (仮称)	複雑な課題の解決 (仮称)
XXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXX
知識及び技能 ・XXXXXXX ・XXXXXXX	思考力、判断力、表現力等 ・XXXXXXX ・XXXXXXX



- 一方、今回の構造化は、現行の「主体的・対話的で深い学び」の実装を図るものであることから、新たな用語の提起には慎重であるべきとの指摘もあり、現行との連続性を感じられる書きぶりであることが重要。これを踏まえ、可能な限り現行で既に用いられている言葉を使いつつ構造化を図る観点から、以下のような示し方とすることが考えられないか

知識及び技能に関する 統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の 総合的な発揮
XXXXXXXXXXXXXXXXXX	XXXXXXXXXXXXXXXXXX
知識及び技能 ・XXXXXXX ・XXXXXXX	思考力、判断力、表現力等 ・XXXXXXX ・XXXXXXX

2. 内容の表形式化の具体的な考え方(「並列」パターン)(続き)

- このような示し方をする場合、学年区分の在り方も課題となる。現行では、各教科等の内容は、①学年別に示しているもの、②複数学年別に示しているもの、③指導する学年を示していないものがあり、①及び②については、指定する学年での指導を求めているほか、学年別目標も示している
- この点、上記のような構造化を行った場合、「統合的な理解」「総合的な発揮」にぶら下がる個別の「知・技」等が複数学年にまたがる場合も考えられる。その場合、引き続き学年毎に内容を示すこととすると、同じ「統合的な理解」「総合的な発揮」にぶら下がる資質・能力であっても学年毎に分断して示されることとなり、資質・能力の深まりを体系的に理解することに課題が残る
- また、論点整理では、教科書作成等の観点から引き続き学年区分の一定の記載は必要だが、多様な子供の実態に応じるため学年区分に囚われず柔軟に教育課程の編成・実施が可能であることを明確にすべきとされている



- これらを踏まえ、表形式化に当たっては、学年別に目標を定めて内容を整理することはせず、「統合的な理解」「総合的な発揮」との関係性において内容を整理することとし、指導を想定する学年を明示する場合も、それに囚われず教育課程の編成が可能であることが分かるよう、例えば「○学年相当」という形式で示してはどうか(次頁のイメージ参照)
- こうした指導を想定する学年の記載については、各教科の性質や学校種・発達段階に応じて、1学年毎に示すのが適切と考えられるもの、低・中・高学年など複数学年でまとめて示すのが適切と考えられるもの、示さないことが適切と考えられるものなど様々な場合が考えられるため、柔軟に記載を検討していくことが必要ではないか

表形式による構造化パターン①（並列パターン）

令和7年10月14日
総則・評価部会
論点資料

資質・能力の一体的育成の可視化

資質・能力の深まりの可視化

(1) 項目名		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	<div>この内容のまとまりを通じて獲得して欲しい統合的な理解等を示す（検討項目④で詳細を検討）</div>	<div>この内容のまとまりにおける知識及び技能を活用しつつ、思考力、判断力、表現力等を総合的に発揮して複雑な課題を解決できる力を示す（検討項目④で詳細を検討）</div>
○学年相当	(小見出し) ・ ・ (小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・ (小見出し) ・ ・
○学年相当	(小見出し) ・ ・ (小見出し) ・ ・	
○学年相当	(小見出し) ・ ・ (小見出し) ・ ・	
(内容の取扱い)		

2. 内容の表形式化の具体的な考え方(「並行」パターン)

- 「並列」パターンでは、「知・技」に対応して一体的に育成を目指す「思・判・表」を並列して示すことで「ヨコ」の関係を示すこととしている。このパターンは、「知・技」の内容の系統性が明確で、「知・技」の内容のまとまりに対応した固有の「思・判・表」が想定できる教科では具体的にイメージしやすく、「思・判・表」の活動を通じて対応する「知・技」を育成していく学習指導への改善に資することが期待できる

(例) 数学では、関数における「思・判・表」と図形における「思・判・表」は異なるものが想定される

- 一方で、教科によっては、「知・技」よりも「思・判・表」の系統性が明確で、「知・技」の内容のまとまりに対応した固有の「思・判・表」が想定しにくく、「知・技」が全体として「思・判・表」の深まりを助けるといった構造のものもある

(例) 国語では、漢字・文法・情報の扱い方などの「知・技」に対応した「思・判・表」が明確ではなく、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことといった「思・判・表」のそれぞれの深まりを、「知・技」が全体として支えている構造となっている

- このような教科は、「並列」パターンのように「知・技」に対応した「思・判・表」を並列して見せることの意義は小さい。むしろ下部のイメージのように、「思・判・表」の深まりをまず明確にできるよう列として示し、その深まりを「知・技」が支えながら一体的に育まれていくことを視覚的に示すことにより、「知・技」が全体として「思・判・表」の深まりを助けることを具体的にイメージしやすく、学習指導への改善に資することが期待できる(次頁イメージ図参照)

思考力、判断力、表現力等の 総合的な発揮 XXXXXXXXXXXXX	1)	•XXXXXXX	•XXXXXXX	•XXXXXXX
	2)	•XXXXXXX	•XXXXXXX	•XXXXXXX
	3)	•XXXXXXX	•XXXXXXX	•XXXXXXX
知識及び技能に関する統合的な理解 XXXXXXXXXXXXX	•XXXXXXX •XXXXXXX			

表形式による構造化パターン②（並行パターン）

資質・能力の深まりの可視化

		○学年相当	○学年相当	○学年相当
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 知識・技能を活用しつつ、思考力・判断力・表現力等を総合的に発揮して複雑な課題を解決できる力を示す（検討項目④で詳細を検討）	(1) 項目名	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・
	(2) 項目名	(小見出し) ・ ・	下に示す知識及び技能を活用しながら、左に示す複雑な課題の解決をする上で必要な要素となる思考力、判断力、表現力等を示す。 （検討項目⑤で詳細を検討）	
	(3) 項目名	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・
	(4) 項目名	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・
知識及び技能に関する統合的な理解 この内容のまとまりを通じて獲得して欲しい統合的な理解等を示す（検討項目④で詳細を検討）	(1) 項目名	(小見出し) ・ ・	左に示す統合的な理解を獲得し、上に示す思考・判断・表現を豊かにするために必要となる知識及び技能を示す（検討項目⑤で詳細を検討）	
	(2) 項目名	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・
	(3) 項目名	(小見出し) ・ ・	学年相当に分けて示す必要がない場合は、可能な限り繰り返しを避け、セルを統合して示すなど簡素な示し方となるよう工夫する。	
	(4) 項目名	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・
(内容の取扱い)				

資質・能力の一体的育成の可視化

※表の読み方を示す柱書きや、見出しや各項目の番号の示し方等の平仄については告示の検討に際して技術的に検討

3. 1. 及び 2. を踏まえた今後の対応

- 以上のように、示す要素は同一でもその示し方は以下の2つのパターンが考えられる。各教科等では、2つのパターンから各教科等の特質に応じた学習過程の改善を図る上で、教師にイメージがより掴みやすいと考えられる方を選択し、形式の具体について各教科等WGで検討を深めることとしてはどうか
 - ✓「知・技」の内容のまとまりに対応した「思・判・表」を並列で示す、「並列」パターン
 - ✓「思・判・表」の深まりを「知・技」が支えることを示す、「並行」パターン
- なお、現行でも「知・技」「思・判・表」それぞれごとに内容を示していない、「生活」「特別活動」「道徳」「総合的な学習（探究）の時間」や幼稚園教育要領における内容の示し方については、上記のパターンの考え方を踏まえつつ、それぞれの教科・領域に適した表形式による示し方について、各WGで検討してはどうか
- なお、今回の表形式化は、欄に分けて記載された事項を一体的に、順序立てて見ることで、資質・能力に関する理解が深まり、教師の質の高い授業作りに繋がっていくことを期待して行うものである。したがって、単に見やすさのみを求めたり、表にすることが自己目的化したりすることなく、各教科等の特質に応じた学習過程の改善に繋がるように各WGで検討を深めることが重要。その際、表で端的かつ直感的な理解を保障しつつ、学習過程のデザインが具体的にイメージできるような説明が本文や解説で加えられることにより、より一層立体的な理解が可能になるのではないかと。

4. 「タテ」の関係、「ヨコ」の関係の用語

- こうした考え方を表形式で示す場合、「並列」パターンでは、資質・能力の深まりを上下で、資質・能力の一体的育成の関係を左右で確認できるため、「タテ」「ヨコ」の関係の可視化という言葉がイメージしやすい。一方で、「並行」パターンでは、資質・能力の深まりは左右で、一体的育成の関係は上下で確認することとなるため、「タテ」「ヨコ」という語感とのズレが生じ、分かりにくいとの指摘もある
- このため、「タテ」「ヨコ」の関係の可視化という表現は今後用いず、「資質・能力の深まり」「資質・能力の一体的育成」の可視化といった表現を用いて示していくことが考えられるのではないかと

職業に関する教科の表形式化の方向性について



方向性

- 職業に関する各教科については「知識・技能」の系統性を示すことができ、当該「知識・技能」の内容のまとまりごと「思考力・判断力・表現力等」が想定される構造であることから、**いわゆる「並列」パターンで表形式に整理**してはどうか。
- その際、**課題研究**については、各教科の特質や、「各教科等横断的な学びや探究的な学習を通して身に付けるべき資質・能力や、産業教育における探究的な学習を行う際の配慮事項を中心とした内容」とする第3回の議論を踏まえ、**その示し方を別途検討**していくことかどうか。

課題研究以外の各科目のイメージ

資質・能力の一体的育成の可視化

(1) 項目名		
	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	この内容のまとまりを通じて獲得して欲しい統合的な理解等を示す（検討項目④で詳細を検討）	この内容のまとまりにおける知識及び技能を活用しつつ、思考力、判断力、表現力等を総合的に発揮して複雑な課題を解決できる力を示す（検討項目④で詳細を検討）
	(小見出し) ・ ・ (小見出し) ・ ・	(小見出し) ・ ・ (小見出し) ・ ・
(内容の取扱い)		

資質・能力の深まりの可視化



議題 (3)

高次の資質・能力（中核的な概念等）

1. 「高次の資質・能力」の可視化の目的

- 検討項目③では表形式での内容の構造化で、
 - ✓ 「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化
(従前の「タテ」の関係の可視化)
 - ✓ 「知・技」「思・判・表」の一体的育成の可視化
(従前の「ヨコ」の関係の可視化)
- を図ることにより、資質・能力の関係性の理解に基づき、それらを一体的に育成する単元づくりを助け「深い学び」を具現化しやすくする方策を検討した
- このうち特に、「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」(※以下、総称して「高次の資質・能力」)を示すことについては、「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化を通じて「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする役割を担うもの

※論点整理では、「知・技」の深まりを示すものを「中核的な概念の深い理解」、「思・判・表」の深まりを示すものを「複雑な課題の解決」と仮称し、それらをまとめて「中核的な概念等」と呼んでいたが、新たな用語が増えることを避けるため現行でも用いられている言葉を用いることとしたもの。「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」をまとめて呼称する際、以後「高次の資質・能力」と呼ぶこととする。これらの用語の在り方については、各教科等WGでの具体的な議論も踏まえた上で、学校現場に趣旨が適切に伝わるものとなっているかという視点から継続的に検討。

2. 各WGでの検討に当たっての考え方

- こうした役割を果たす「高次の資質・能力」を各WGで具体的に抽出する際、各教科等固有の学習過程の改善を図るためには、教科ごとの特質に応じて検討が行われる必要があります、書きぶりを現時点で一律に整理すべきものではない
- 一方で、各教科等での「高次の資質・能力」は、備えるべき要素や性質等について、一定の共通性があることにより、各教科等を横断して適切に機能を発揮することが期待できる
- 各教科等の独自性を活かしつつ、共通に備えるべき要素や性質等が確保された「高次の資質・能力」の書きぶりとなるよう、次頁のように「高次の資質・能力」がその目的を踏まえたものとなっていることを担保するチェックポイントを示した上で、各教科等WGでの検討を深めてはどうか(次頁参照)
- なお、「全てのポイントに照らして異論の余地のない」ものを検討することは困難な場合も考えられるため、各教科等の授業改善に資する点を重視しつつ検討を進めるべきではないか

「高次の資質・能力」を検討する上でのチェックポイント（案）

【A 教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点】

- ・目標の達成に資する上で重要であるとともに、各教科等の本質的意義の中核（「見方・考え方」）に照らし適切なものであるといえるか

【B 資質・能力の深まりを示す観点】

- ・要素となる個別の資質・能力の「深まり」を示す事ができているか。具体的には、内容のまとまりを単に要約した「見出し」に留まるのではなく、個別の資質・能力が児童生徒の中で相互に関連付けられて、統合的に獲得された際の姿を示すことができているか
- ・要素となる個別の資質・能力を学ぶことの意義（※）や、それを広く社会において、いつ、どのような文脈で活用することができるのか、を教師がイメージしやすいものとなっているか

（※）学ぶことの「意義」は必ずしも実生活における実用的な側面にとどまらない点に留意

【C 深い学びを実現する単元づくりを助ける観点】

- ・教師が単元構想時に、「知識及び技能の統合的な理解」と、それにぶら下がる個別の「知・技」、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、単元を通じて児童生徒が追究する本質的な「問い」を構想する上で参考になるか
- ・教師が単元構想時に、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、論述・レポート・発表・作品製作等、単元を通じて児童生徒が資質・能力を総合的に発揮しながら取り組む課題を構想する上で参考になるか

【D 分かりやすさ等の観点】

- ・経験の浅い教師も含めて、一人一人の教師にとって、分かりやすく、使いやすいことに加え、教科等の面白さや魅力が伝わる文言となっているか（学習・指導を通じて、最終的には児童生徒自身が掴むことができる必要があるという点も留意）
- ・学校種・学年等、発達段階に即して妥当なものとなっているか（系統性等の重視により、発達段階に照らし過度に抽象的となっていないか等）

職業に関する各教科における「高次の資質・能力」の示し方・考え方

現 行

教科目標

（見方・考え方）を働かせ、（学習過程）を通して、（資質・能力の趣旨）資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技術

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力・人間性等

科目目標

（見方・考え方）を働かせ、（学習過程）を通して、（資質・能力の趣旨）資質・能力を次のとおり育成することを目指す

知識及び技術

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力・人間性等

科目の内容

【指導項目】

（１）人と技術と環境

ア 人と技術

イ 技術者の使命と責任

ウ 環境と技術

・
・
・

改善イメージ

教科目標

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力・人間性等

（見方・考え方）

（見方・考え方）を働かせ、（学習過程）を通して、（資質・能力の趣旨）資質・能力を次のとおり育成することを目指す

科目目標

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力・人間性等

科目の内容

資質・能力ベースでの記述

(1) 項目名	
知識及び技能に関する総合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
この内容のままとりを通じて理解し、総合的な理解等を示す（検討項目全て詳細を検討）	この内容のままとりにおける知識及び技能を活用し、思考力、判断力、表現力等を総合的に発揮して複雑な課題を解決できる力を示す（検討項目全て詳細を検討）
(小見出し) ・ (小見出し) ・	(小見出し) ・ (小見出し) ・
(内容の取扱い)	

職業に関する各教科における原則履修科目（基礎科目）における 資質・能力ベースでの記述の柱立てのイメージ

3つの柱立てのイメージを踏まえ、各教科の学習内容の状況に応じて指導項目を柔軟に設定。

（１）各産業の社会的な意義や役割

〇〇（産業名）が私たちの暮らしに果たしている役割について、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）〇〇（産業名）は、環境や文化と密接に関わりながら発展してきたことを理解すること。

（イ）〇〇（産業名）を支える技術の特色を理解すること。

（ウ）環境や自然、生活や文化との調和など、〇〇（各産業）の動向について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）これからの〇〇（各産業）の在り方について、実践的・探究的な活動を通して考察すること。

（２）各教科で学習する内容の概括

〇〇（産業名）及び〇〇関連産業について、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）●●（各教科における分野）に関する実践的・探究的な活動を通して、その特徴や現状と課題などについて理解すること。

（イ）■（各教科における分野）に関する実践的・探究的な活動を通して、その特徴や現状と課題などについて理解すること。

（ウ）◆（各教科における分野）に関する実践的・探究的な活動を通して、その特徴や現状と課題などについて理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）□□に関する課題について、科学的な根拠をもって探究することを通して、合理的、創造的に解決策を見いだして表現すること。

（３）教科全体を通じた実践的・探究的な学習

実践的・探究的な学習を進めることについて、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）実践的・探究的な学習の方法と進め方について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）自分で課題を立て、科学的な根拠をもって探究し、表現すること。

職業に関する原則履修科目における 「高次の資質・能力」のイメージ

(1) 各産業の社会的な意義や役割

高次の資質・能力	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	我が国において各産業が果たしてきた意義や役割、その技術を学習することで、当該産業を継承・発展・創造していくことが、私たちの暮らしをよりよくすることにつながることを理解する。	これからの我が国の各産業の在り方に関する課題を発見し、それらを取り巻く諸問題や今後の可能性について、科学的な根拠に基づき、合理的かつ創造的に考察することができる。

(2) 各教科で学習する内容の概括

高次の資質・能力	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	各産業の各分野に必要なとなる基礎的な知識や技能の習得に取り組むことで、各産業の全体像を把握するとともに、必要となる知識や技能を高め続けていくことが、よりよい課題解決につながることを理解する。	地域の実態を踏まえながら各産業の各分野に関する課題を発見し、それらを科学的な根拠に基づき、合理的かつ創造的に解決することができる。

(3) 教科全体を通じた実践的・探究的な学習

高次の資質・能力	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	繰り返し課題解決に取り組むことで、未知の課題に直面しても創造的な解決につなげることができることを理解する。	各産業に関する課題を主体的に発見し、科学的な根拠に基づいて探究するとともに、職業人としての倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決に向けた選択を行うことができる。

農 業（たたき台（案））

《教科目標》

農業や農業関連産業の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力について、実践的・探究的な学習活動を行うことなどを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
農業の各分野について <u>社会的な意義や役割を含め</u> 体系的・系統的に理解するとともに、農業の各分野の <u>発展のために必要となる</u> 関連する技能を身に付けるようにする。	農業の各分野に関する課題を発見し、 <u>科学的な根拠に基づいて探究するとともに</u> 、職業人としての倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する力を養う。	第2回目の議論を踏まえ更に検討

《見方・考え方》

農業や農業関連産業に関する事象を、生産・環境・資源の統合的な視点で捉え、職業人としての自己の成長と、農業や農業関連産業の持続的な発展につなげること。

《各科目の目標》 農業と環境の例

農業の各分野で活用する基礎的な資質・能力について、実践的・探究的な学習活動を行うことなどを通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
農業や農業関連産業について <u>社会的な意義や役割を含め</u> 体系的・系統的に理解するとともに、産業の発展に <u>必要な農業生産技術などの</u> 関連する <u>基礎的な</u> 技能を身に付ける。	農業や農業関連産業に関する課題を発見し、 <u>科学的な根拠に基づいて探究するとともに</u> 、職業人に求められる倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決する <u>基礎的な</u> 力を養う。	第2回の議論を前提に別途検討

現 行

第1 農業と環境

2 内容

1に示す資質・能力を身に付けることができるよう、次の〔指導項目〕を指導する。

〔指導項目〕

（1）「農業と環境」とプロジェクト学習

ア 農業学習の特質

イ プロジェクト学習の方法と進め方

（2）暮らしと農業

ア 食料と農業

イ 自然環境と農業

ウ 環境保全と農業

エ 生活文化と農業

オ 農業の動向と展望

（3）農業生産の基礎

ア 農業生物の種類と特性

イ 農業生物の育成と環境要素

ウ 農業生産の計画と工程管理・評価

エ 農業生物の栽培・飼育

（4）農業と環境のプロジェクト

（5）学校農業クラブ活動

柱立てのイメージ

（1）私たちの暮らしと農業（各産業の社会的な意義や役割）

農業の多面的機能が私たちの暮らしに果たしている役割について、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）農業は、自然環境や生活文化と密接に関わりながら発展してきたことを理解すること。

：

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること

（ア）食料の安定供給、地域文化の形成と伝承、これからの農業と生産の在り方について、実践的・探究的な活動を通して考察すること。

：

（2）農業と農業関連産業（各教科で学習する内容の概括）

農業と農業関連産業について、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）農業生物について、種類と特性、育成と環境要素、生産性向上を目指した工程管理と評価の重要性について理解すること。

：

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）農業生物の特性や栽培・飼育技術と環境との関係について考察し、農業生産の計画と工程管理、地域の農業・環境の調査に取り組むこと。

：

（3）プロジェクト学習と学校農業クラブ（教科全体を通じた探究的な学習）

プロジェクト学習や学校農業クラブ活動をはじめとする、実践的・探究的な活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）農業の特質に応じた、実践的・探究的な学習について理解すること。

：

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）実践的・探究的な活動を通じて、課題を主体的・計画的に設定し、調査・観察・記録・分析を通して科学的・探究的に解決するとともに、その成果を、適切にまとめ、発表すること。

：

農業と環境

（１）私たちの暮らしと農業（各産業の社会的な意義や役割）

高次の資質・能力	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	我が国において農業及び農業関連産業が果たしてきた意義や役割、その技術を学習することで、農業及び農業関連産業を継承・発展・創造していくことが、私たちの暮らしをよりよくすることにつながることを理解すること。	農業の多面的機能や社会的役割など、これからの我が国の農業及び農業関連産業の在り方に関する課題を発見し、それらを取り巻く諸問題や今後の可能性について、科学的な根拠に基づき、合理的、創造的に考察することができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 食料の生産・供給、我が国と世界の農業、持続的な食料生産、流通と消費を理解すること 自然環境と暮らし、里地里山、生態系・物質循環、生物多様性の機能を理解すること ⋮ 	<ul style="list-style-type: none"> 食料の安定供給、自然環境・環境保全との関わり、地域文化の形成と伝承などについて考察すること これからの農業と生産技術の在り方について、データに基づいて考察すること ⋮

（２）農業と農業関連産業（各教科で学習する内容の概括）

高次の資質・能力	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	農業の各分野に必要な基礎的な知識や技能の習得に取り組むことで、農業及び農業関連産業の全体像を把握するとともに、必要となる知識や技能を高め続けていくことが、よりよい課題解決につながることを理解する。	地域の実態を踏まえながら農業及び農業関連産業に関する課題を発見し、それらを科学的な根拠に基づき、合理的、創造的に解決することができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 農業生物の分類・特性・成長、繁殖・育種、作付体系、飼養管理を理解すること 栽培・飼育と環境(大気、土壌、生物環境等)の相互関係を理解すること ⋮ 	<ul style="list-style-type: none"> 農業生物の特性、栽培・飼育技術と環境との相互関係について考察すること 農業生産の計画と工程管理・評価、地域の農業・環境の調査に取り組むこと ⋮

（３）プロジェクト学習と学校農業クラブ（教科全体を通じた探究的な学習の重要性）

高次の資質・能力	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	繰り返し課題解決に取り組むことで、未知の課題に直面しても創造的な解決につなげることができることを理解し、学科の特性に応じたプロジェクトを遂行し、その成果を発表することができる。	農業及び農業関連産業に関する課題を主体的に発見し、科学的な根拠に基づいて探究するとともに、職業人としての倫理観を踏まえ、合理的かつ創造的に解決に向けた選択を行うことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 農業学習の特質(生命、体験的・継続的、実践的)、農業生物を育てる意義、環境調査の重要性を理解すること プロジェクト学習の4段階(課題設定、計画立案、実施、反省・評価)の方法を身に付けること ⋮ 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト学習により、課題を主体的・計画的に設定し、継続的に実践して解決すること 実験・実習、調査、観察、記録を継続的にを行い、その結果を分析、考察、評価してまとめ、発表すること ⋮